

第4期三田市教育振興基本計画検討委員会（第2回）会議録

令和8年3月3日（火）10時00分～12時00分

三田市役所南分館 601会議室

日 時	令和8年3月3日（火） 午前10時00分から午前12時00分まで
開 催 場 所	三田市役所南分館6階601会議室
出 席 委 員	吉水委員長、仲矢副委員長、 大西委員、尾上委員、齊藤委員、谷口委員、川原委員、藤井委員、小山委員、久後委員
欠 席 委 員	山口委員、下中委員
事務局出席者	加嶋教育長、山本学校教育部長、井上学校教育部次長、 久保学校教育部次長、上島子ども・未来部次長、榎本市民生活部次長、 井上教育総務課長、上野学校再編課長、西浦学校教育課長、 藤田地域クラブ推進課長、吉田教育支援課主幹、出藏教育研修所長、 宮城学校給食課長、藤田子ども育成課長、神影幼児教育振興課長、 斉藤教育総務課副課長、上仲教育総務課事務職員
傍 聴 人	1名

《次 第》

1.開 会

2.教育長あいさつ

3.議 事

(1) 第1回会議録について【資料1】

(2) アンケート調査について

・クロス集計例【資料2-1】

・自由意見まとめ【資料2-2】

(3) 第4期計画の骨子案について

①三田市の教育を取り巻く状況・課題整理【資料3-1】

②三田市の教育がめざす姿について【資料3-2】

③計画の体系図【資料3-3】

4.次回予定

第3回 令和8年5月25日（月）14：00～

三田市役所南分館601会議室

5.閉 会

1. 開会あいさつ	
事務局(司会)	ただいまから第2回三田市教育振興基本計画検討委員会を開催させていただきます。本日はお忙しい中ご参加いただきありがとうございます。司会を務めさせていただきます、学校教育部次長の井上でございます。本日、委員の皆様は12名中現在名の方ご参加いただいています。下中委員は欠席とお伺いしています。山口委員につきましては、少し遅れるもしくは閉会まで間に合わないということの連絡をいただいています。ですが、過半数以上の出席をいただいておりますので、会議が成立しているとご報告をさせていただきます。また、傍聴につきましては、現在1名の方が来られています。
2. 教育長あいさつ	
教育長	皆さんおはようございます。本日は大変忙しい中、この会議にお越しいただき、どうもありがとうございます。3月に入りまして、寒さもどこか和らぎまして、春の訪れを感じるような日が近づいてきました。そんな中で、本日は第2回三田市教育振興基本計画の検討委員会を開催させていただきます。 第1回につきましては、私の方から教育委員会教育長の思いも込めてお話しさせていただきます。委員の皆様からそれぞれ自己紹介と、この基本計画検討委員会にける思いのようなものをいただきました。本日は、議事録の3番「議事」に従って進めます。限られた時間でございますが、忌憚なきご意見をぜひいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
事務局	それでは、資料の確認をいたします。本日の当日配布資料として、資料の2アンケート調査結果ご報告書を机の上に置かせていただいています。それ以外の資料1、資料2、資料2の1、資料2の2、3の1、3の2、3の3につきましては、事前に送付をさせていただきます。また、会議中に補足等がございましたら、申し出ていただければと思います。 それでは、以降の進行につきましては、委員長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
3. 議事	
委員長	初めに、第1回の会議録についてということで資料1です。前回、フリートークで委員さんからご意見いただきました。会議録ももう既に確認されていると思いますが、何か補足等ありましたらよろしくお願いいたします。大丈夫でしょうか。 (意見なし)
委員長	では2番目です。三田市の教育に関するアンケート調査結果報告につい

	てご説明いたします。前回委員会では、アンケート結果の先行資料をいただきました。結果報告は事務局からお伺いしまして、議論につなげていきたいと思います。事務局の方をお願いします。
事務局	資料２、２-１、２-２について説明
委員長	アンケート項目について、特に今の時点で気になったことなどありますか。三田市は体育館の冷暖房はついていませんか？
事務局	冷暖房はまだついておらず、３月議会でいくつかの学校については設計業務の委託費を提案している状況です。
委員	体育館の冷暖房などは、再編が検討されている中で入れるに入れられないという事情もあると思います。耐震化は終わったと思いますが、再編について決まらない限りは進めないのではないかと思います。第１次避難所は主な小学校が指定されていると思いますが、中学校は第２次避難所になっていると記憶しています。そのため、小学校は冷暖房が必要だと思いますが、足りなかった場合は第２次避難所として中学校が開かれると思いますので、再編の際は、中学校も含めて三田市全体で検討していただければと思います。三田市全体の予算と施設への費用の確保を、防災と学校の施設全体で考えていただければと思います。
事務局	学校への投資的な事業っていうのは、やはり再編のことを考えなければならぬと思っています。ただ、今いる児童生徒は再編をすべて待ち、何もしないというわけにもいけないので、その辺は内部の検討は必要かと思っています。 避難所につきましては、水防については小学校がメインかと思います。また、地震になれば中学校も開かれるというところがあったと思います。
委員	資料２の表の中で、「不明・無回答」が１００％とありますが、こちらは間違いではないでしょうか？
事務局	こちらの１００％という数字は間違っておりまして、実際には年齢が分からない方が１人おられます。
事務局	今の部分ですが、クロス集計になっていまして、３０歳未満や３０歳代など、横に見ていただくと、それぞれの属性ごとの回答の割合を示しています。一番下の不明・無回答、年齢の回答がなかった方が１人だけいらっしゃいます。

委員	やって、その方の回答がこの 1 つ目と 2 つ目の項目にありましたので 100%としているのですが、分析上は意味がないところになりますので、誤解を招くところは今後出していく時には気をつけてまいります。 塾に行かなくても良いレベルにしてほしいと意見がありましたが、特に英語はテストの点数の高い子と低い子の二極化をしています。英会話教室や塾にいくと点数の高い子、行っていない子は低い子になっており、本来は中間の点数の子が 1 番多くなる山型になるはずだと思います。小学 6 年生の私の息子が中学生から話を聞くと、トライやる・ウィークで来たときに、「英語は小学生から根詰めてやってほしい、すぐについて行けなくなってしまう。」ということを言われました。それも私としては気になります。小学校の英語の授業は会話に重きがおかれ、文法はまだよい、楽しむことに重点を置いているように思います。ですが、中学校では文法を覚える必要があり、ついていけない子が増えるのではないかという意見を聞いています。小学 5 年生・6 年生は週 2 回、英語の授業をとっていると思いますが、be 動詞くらいは教えてほしいと思います。ルールがわかった状態で中学校へ進学してほしいです。小学校と中学校の落差が大きくてもったいないと思いました。
事務局	英語教育ですが、三田市では就学前、幼稚園の年中の子どもたちから 11 年間を見据えて英語教育を進めています。幼稚園の子たちには英語の音やゲームを通して行っているということで、学習指導要領では 3 年生から外国語活動として進めるのですが、三田市では小学校 1 年生、2 年生で今は年間 5 回、英語に親しむという時間を設けています。3 年生からは学習指導要領にある週 1 回の外国語活動、小学 5、6 年生からは週 2 回の外国語の授業として進めています。その中でアルファベットに親しむ、また発音の練習なども行いますが、その授業の中に A L T や地域の外国語サポーターに小学校の授業の約半分に入っていただき、例えば「あなたは何が好きですか?」「私はこういう食べ物が好きです。」といった会話を通して、英語の文法に触れていくというところはやっていました。中学校では、これまでから英語を授業としていますが、11 年間を見据えた中で英語教育を推進しています。
委員長	就学前から取り組んでいるということですが、小学校から中学校でギャップがあるというご意見かと思しますので、そちらは少しご検討いただければと思います。アンケートの中身に具体的に立ち戻って考えられればと思います。

委員	市民アンケートの中に学校サイズの項目はありましたでしょうか。またその場合、その学校サイズについて地域別に比較分析をされていることはあるのでしょうか。
事務局	クロス集計を小学校区別でとっていますので、また個別で資料としてお送りすることが可能です。
委員長	では次ですが、今回のメインの話題かと思いますが、議題3の「三田市の教育の現状について」です。ではまず、三田市における教育の現状・課題について、事務局からご説明をお願いします。
事務局	資料3-1、3-2、3-3について説明
委員	資料3-1の1ページ目、基本施策3の取組22で使用している漢字は、「講和」ではなく「講話」ではないでしょうか。
事務局	修正いたします。また、付け加えになりますが、その横の〈児童生徒〉の中学2年生につきましても、「保険・体育」となっていますが、こちらの字も間違いでございます。
副委員長	資料の3-1（補足）のK P Iについてですが、全国学力調査の結果は目標値を設定するときに、山型になっているようなイメージだと思いますが、尖っている山と平たい山では目標設定の仕方を変えていく必要があると思います。目標設定の根拠がある方が、説明責任が果たせるのではないかと思います。
委員長	100%や0%という目標を設定しなければならないこともありますが、その目標設定が難しいと思います。ただ、相談件数が増えていることや利用する動きが出てきていることを考慮して、目標設定をしていければと思います。 それでは②三田市の教育がめざす姿、③計画の体系図について、事務局より説明をお願いします。
事務局	資料3-2、3-3について説明
委員	評価について、最終的には右側の施策7、8でまとまっているところですが、私たち評価委員は左側の100項目を見ている中で、例えば7項目と10項目では課がまたいでいたため、そういった観点では今回のようにまと

委員	まっているのは、意見を求めたり、考えを整理したりするのに良いのではないかと感じました。 私も先ほどご意見あったように、非常に分かりやすくなったと思います。第3期のものは学校教育に関する内容と、社会教育的な内容のものが入り組んでいるような印象がありまして、やや分かりにくいところもあったように感じていました。もちろん学校教育と社会教育の協力、それぞれが連動する部分も大事にしなければいけませんが、学校教育と社会教育を分けて整理することで、分かりやすくなったと感じました。 これまで 100 項目という多くの項目が掲載されてきたのは、三田ならではの特色ある取組が大切にされてきた結果だとも思っています。今回の改定に際して、第3期の施策がどこに、どのように書かれているのか、これまで三田で取り組まれてきた事業がどのように継承されているのかということが分かるような示し方が必要だと感じています。 前回の第3期は紙で冊子が作られていたかと思うのですが、今は様々なデジタル技術がありますので、デジタル冊子等で索引を設ける、リンクを貼っていくなど工夫をしながら、これまでの取組がどのように引き継がれているのかわかるような方法を検討いただければと思います。 また、少し話が逸れるかもしれませんが、近隣の市町では、教育グランドデザインのようなものを作成されています。1枚もののペーパーでイラストや図を使いながらまとめたものです。どうしても教育基本計画はテキストが多く、よほど興味を持って読まない限り全体像を理解することは難しいものです。概要版のようなイメージしやすいものも併せて作成いただくのもひとつの方法かと思います。
委員長	第3期と第4期がどのようにつながっているかなど分かりやすくしていただければと思います。また、かなり細かいところでやらなければならないことを設定してということがありますので、合わせてKPIの設定をしてということもあります。また、立命館の方がされていたようなミッションやビジョンを組織に浸透させるということも重要かと思います。
委員	基本目標の2つ目について、こちら分けているのですが、自分個人的な感覚では「学びの環境整備」という中に「学校、家庭、地域の連携」というのも含まれるような気がするのですが、学びの環境整備の中で地域のことに取り組んだり、安心安全で生きるための学校としても良いのかと思います。過去の流れが3つに分けてきたので、その流れを踏襲ということも分かりますが、まとめることもひとつの方法かと思ったのですがいかがでしょうか？

事務局	今は仮で3つに分けていますが、今後の議論の中で、基本目標を2つに絞るというのも一つの選択肢かと考えています。
委員	民間の団体では、プログラム、リーダーシップ、施設という3つの視点から目標を考えたり、評価の視点を当てたりしており、この3つがちょうど思っていました。さらに必要なこととして、それらを総合したようなマネジメント視点がなければ、実現は難しいと思いました。 別の質問があるのですが、軽度の発達障がいのお子さんがクラスに入っていますが、その人数がどのように推移しているのか、また外国人の子どもたちの人数や割合など、その辺りの変化がどのようになっているか教えていただけますか。私が以前にいただいた統計では、受け入れされている外国人の数は人口 11 万人弱に対して、1,500 人ほどで約 1.5%かと思いますが、私が現在勤務している障がいのある子どもたちの組織は概ね 7%から 10%の外国人の子どもたちが在籍してまして、あまりにも差があるので少しお聞きしました。
事務局	発達障がいのお子さんがどれくらい増えているかという質問かと思いますが、正確な数が今は分からないのですが、特別支援学級に属さず、通常学級で週 1 時間から 2 時間、通級の指導を受けているお子さんがいらっしゃいます。その通級指導を行う拠点校の数で考えますと、小学校では 4 校、中学校が 3 校でした。それが、次年度は現在の予定では、小学校においては 10 校、中学校では 4 校に増加いたします。そのことから考えると、通常学級に属しながら、何らかの教育支援が必要なお子さんが増えている傾向にあるのかと考えています。
事務局	外国人児童生徒の人数ですが、日本語指導が必要な児童生徒につきましては増加傾向です。また、市内に住んでいる外国人の方の人数についても増加傾向です。正確な人数については、また後日ご報告できればと思います。
委員	外国語のデータを出していただく際に、現在三田市で何人いるのか、また対応している外国語についてのデータがあった方が良いかと思います。県の日本語指導支援を県費で続けているかと思いますが、その後も日本語のサポートを三田市が独自で行っているかと思うので、その辺りのデータも合わせて出していただけた方が、今後の話し合いに役立てるのではないかと思います。

委員	第4期計画案について、基本施策2と基本施策6で「幼児期と児童期の接続」に関する項目が重複している気がするので、確認をお願いします。
事務局	確認をして必要な部分は修正いたします。
副委員長	学びの環境整備と教員に対する待遇向上に関する部分に関するのですが、今、非常に先生が途中で辞めておられ、代わりに非常勤の先生などが担任になられるという状況が散見されるかと思います。そこに、教育振興計画を通じてどう計画を立てていくのか。やはり市民が理解し、支持されて予算を確保するという説得力を持つものではあると思うので、その点に関してはご検討いただきたいと思います。
委員長	今の時点でここに含まれることはありますか？
事務局	47番の「教職員の働き方改革」において、計画的な配置に取り組む想定です。おっしゃるとおり、欠員が生じたときの配置については、臨時講師を探すにしてもなかなか見つからないという、全国的な教員不足という状況ですので、募集等に力を入れながら配置しているところです。そういった学校現場を支えるもののひとつとして、さまざまな方法があるとは思いますが、そのひとつが市費で人員配置をしていくことだと感じています。例えば不登校対策を行ったり、外国の日本語指導が必要な児童生徒に対してのサポートであったり、特別支援学級など、さまざまなところに市費で人員を配置していますので、ここに集約されるというわけではないですが、目標ごとにそのような文言が入ってくるのではないかと考えています。
委員長	今ご意見いただいたのは、自然災害が起こったときにはこのように対応しますというような、BCPのようなところもあるかと思いますが、人員の確保についてもそのような観点が必要なのではないかとということかと思っています。当然のことながらマネジメントという話になりますが、そのようなことも恐らく必要になりますので、市でも具体的に考えているとは思いますが、そのようなことを見える化していくべきではないかと思っています。
副委員長	そうすることで、現場で働く先生方としても、「こういったところに反映されたのだな」ということで、心の持ち方が変わるのではないかと思います。
事務局	ありがとうございます。おっしゃるとおり、学校組織のマネジメント力

委員長	の向上を行うなども含めた学校組織の評価、また辞めたいという先生が出ないように、どのような形でチームとして対応をしていくか、そういったところも課題であると認識していますので、そういったところも含めて、大きなこの枠組みの中ではありますが、差し込んでいきたいと思っています。 それではお時間が近づいてきましたので、本日ご意見いただいたことを簡単にまとめさせていただき、次回以降の議論を行う流れにさせていただきます。 アンケートのところでは、小中の外国語教育の充実について、ギャップがあるのではないかとというご意見がありましたので、計画の中にも入れていただいています、具体的な対応についても検討いただきたいと思います。 また体系図につきましては、よく整理されているのではないかとということで、全体的には分かりやすいものに仕上がっているかと思います。各項目の中には、三田ならではのものがあり、これは1回目の時にも少しお話があったかと思いますが、やはり三田ならではの重要なことですので、それが上手く継承されるように、分かりやすいように整理されてほしいと思います。それから全体の体系としては、基本目標が3つとなっていますが、最終的により整理ができるのではないかとような意見がありました。またインクルーシブ教育についてはデータを共有してほしいというご要望もありましたので、こうしたものを参考にしながら、今後はどのように進めていくのかということ、施策の中で重なりもありますので、そういったことも再度見直しをしていただくのが良いのではないかと思います。また、人員のことも難しいと思います。私のところにも毎年、4月5月頃にも人員が足りないというご連絡をいただくことがあり、全国的にそういった状況かと思いますが、人員確保を全国的にできるような形で明確化していただけると、先生方も助かるということで、安心感が高まるのかと思っています。 それでは、今回出た意見等を次回の審議に反映できるように、事務局の方もご検討をお願いします。今後の予定についてですが、本日議論した内容をもとに施策体系を固めていくことになるかと思います。施策体系に基づいて、次回以降の検討会では、第4期計画の具体的な内容、基本施策から具体的な取組、進捗状況の指標等についての議論を進めていくことになります。ボリュームがございますので、2、3回に分けて進めていくことになるかと思いますので、よろしくお願いいたします。また資料3-2に、三田市の教育が目指す姿について、事務局の方から検討くださいということで宿題をいただいていますので、ぜひ皆様もお考えいただければと思い
-----	---

	ます。 それでは、議事は以上ということで、事務局にお戻しいたします。
4. 次回予定	
事務局(司会)	次回の予定ですが、5月25日月曜日の午後2時から、場所は同じく601会議室で開催をさせていただきたいと思います。先ほど委員長からもありましたように、次回以降少しボリュームが多くなりますので、2ヶ月間、間を空けさせていただきました。それでは、閉会にあたりまして、山本学校教育部長よりご挨拶を申し上げます。
5. 閉会	
山本部長	本日も市民アンケートの結果報告や、計画の骨子案につきまして、さまざまなご意見をいただきまして、ありがとうございました。本日いただいたご意見を踏まえて、三田ならではの実効性のある教育振興基本計画となるよう、引き続き検討を進めていきたいと思っています。 次回の開催は先ほどありましたように、5月ということで少し空きますので、もしもそれまでに気づかれたことや、ご不明な点がございましたら、遠慮なく事務局までご連絡いただけたら幸いです。最後になりますが、お足元の悪い中、お越しいただきありがとうございました。

以上

第4期さんだっ子かがやき教育プラン
《三田市教育振興基本計画》
(素案)

令和8年5月

目 次

第1章 はじめに.....	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の期間	2
3 計画の対象範囲	2
4 計画の位置づけ	2
第2章 教育を取り巻く状況.....	3
1 社会の動き	3
2 第3期計画の振り返りからみた三田市の現状.....	4
第3章 三田市の教育がめざす姿.....	5
1 基本理念とめざすこども像.....	5
2 成果を測る指標	6
3 基本目標	6
第4章 計画の内容	7
1 計画の体系図.....	7
2 基本施策の展開	8
基本目標1 【(仮)第3期】「生きる力」を育む教育を推進します	8
基本目標2 【(仮)第3期】魅力ある学校をつくり、家庭・地域と共にこどもの学びを支援します	15
基本目標3 【(仮)第3期】学びを支える環境を整備します	18

第1章 はじめに

1 計画策定の趣旨

少子化が進み、スマートフォンや生成 AI といった技術が当たり前になるなど、私たちの社会は今、想像を超えるスピードで変化しています。将来を見通すことが難しい時代だからこそ、こどもたちが「自らの人生を主体的に切り拓いていく力」を身につけることが、これまで以上に大切になっています。一方で、いじめや不登校、特別な支援が必要な子どもの増加など、教育現場が抱える悩みは複雑になっています。こどもたちを支える先生たちが、心にゆとりを持って向き合えるよう、働き方を整えて学校の組織力を高めていくことも欠かせない課題です。

国では、令和5年6月に「第4期教育振興基本計画」が閣議決定され、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイング¹の向上」の2つをコンセプトとして、教育政策の基本的方向性を示しています。「自分の人生の舵を自分で取る力²」を育てることを重視し、一人ひとりの個性や理解度に合わせて学ぶ「個別最適な学び」と多様な仲間と対話しながら協力して学ぶ「協働的な学び」を進め、より質の高い教育を目指しています。また、こどもも先生も心身ともに健康で、自分らしく幸せを感じながら過ごせる「ウェルビーイング」を教育の柱に据えています。

兵庫県でも、令和6年度から令和10年度を計画期間とする第4期「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」を策定し、「兵庫が育むこころ豊かで自立する人づくり」を基本理念に、『絆』を深め、『在りたい未来』を創造する力の育成を重点テーマとして、教育の方向性を示しています。

三田市では、令和4年度から「第3期さんだっ子かがやき教育プラン《三田市教育振興基本計画》」のもと、基本理念やめざすこども像を示し、家庭・地域と連携した教育の充実に取り組んできました。市全体としても、「教育」を「住み続けたい、選ばれるまち」を支える重要な柱として位置づけており、豊かな自然や大学、博物館といった三田ならではの地域資源を授業や活動に最大限に活用しながら、本市独自の学びをさらに広げていくことが求められています。

本市では、これまでの成果をさらに発展させ、令和9年度から5年間の教育の指針となる「第4期さんだっ子かがやき教育プラン《三田市教育振興基本計画》」を策定します。

本計画に基づき、家庭・地域・関係機関等との協働のもと、こども一人一人の「生きる力」とウェルビーイングを高める教育を推進し、「こどもの夢と未来が輝くまち さんだ」の実現をめざします。

¹ ウェルビーイング：身体的、精神的、そして社会的に「満たされた、よい状態」にあることを指す概念

² 自分の人生の舵を自分で取る力：予測困難な社会において、他者からの指示を待つだけでなく、自らの意志で目的や目標を設定し、主体的に判断・行動して人生を切り拓いていく能力のこと。中央教育審議会が掲げる、次期学習指導要領に向けた基本的な考え方

2 計画の期間



3 計画の対象範囲

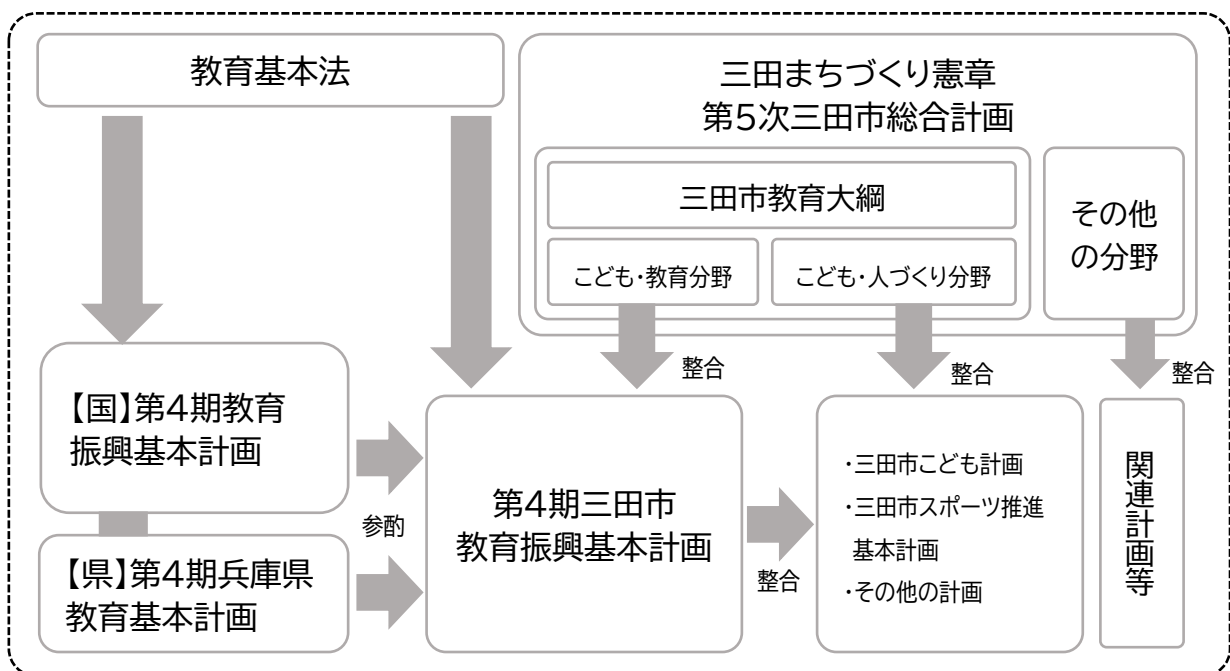
本計画は、学校教育を中心とし、こどもを支える家庭、地域を含めた教育に関わる取組を対象範囲とします。

4 計画の位置づけ

本計画は、教育基本法第17条の規定に基づいて策定する、三田市における教育振興のための施策に関する基本的な計画です。

また、「第5次三田市総合計画」に基づく教育施策を推進するための具体的な計画であり、「三田市こども計画」「三田市スポーツ推進基本計画」などの関連する指針・個別計画と整合を図り策定しています。

■第4期三田市教育振興基本計画の位置づけ



第2章 教育を取り巻く状況

1 社会の動き

社会の変化と不確実性の拡大	■グローバル化、デジタル技術の進展、価値観の多様化、経済・国際情勢の不安定化などにより、将来が予測しづらい社会状況の中、こどもたちが「自立」「協働」「創造」の力を育み、生涯にわたって学び続ける力を持つことが重要です。
人口減少・少子高齢化の加速	■少子高齢化が進行し、年少人口と生産年齢人口の縮小が続くことが予測され、人口構造の変化に対応するため、学校の再編や地域全体でこどもの成長を支えるしくみづくりの必要性が高まっています。
デジタル社会の加速と学習環境の変化	■GIGAスクール構想による児童生徒1人1台のタブレット端末の整備により、学びのデジタル化が進んでいます。 ■一人ひとりに合わせた授業が展開しやすくなる一方、インターネットやSNS上のトラブルに巻き込まれるリスクに対し、情報モラル教育の充実が必要です。
教育的ニーズの多様化	■家庭環境の多様化や、外国籍や障害のある児童生徒など、こどもを取り巻く課題が多様化・複雑化しており、多様な教育的ニーズへの対応が必要です。
学びの質と必要な資質能力の変化	■デジタル化・社会の複雑化に対応するため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通じ、思考力・判断力・表現力など「社会で生きる力」の育成が必要です。
こどもを取り巻く多様な課題への対応	■災害、経済的な格差、地域コミュニティの希薄化など、こどもの心身の健康、社会性、安定した成長環境が脅かされるリスクが高まっており、教育機会の確保に加え、心のケアを含めた多様な支援が必要です。
教職員の働き方改革と持続可能な学校運営	■長時間勤務や業務過多、精神的負荷など、教職員の心身の健康確保と教育の質の維持・向上が必要です。 ■ICTを活用した業務効率化やチーム運営、外部人材の活用など、持続可能な学校運営の体制構築が必要です。
人生100年時代における生涯学習の必要性	■人生100年時代において、生涯学習・リカレント教育³、学び直しの重要性が高まっています。 ■「持続可能な社会の創り手の育成」に向け、学校教育だけでなく、子育てから成人期・高齢期までを含めた「学びの連続性」が必要です。
国の計画の動向	■「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」をコンセプトとして、持続可能な社会を維持・発展させていくことを目指しています。
兵庫県の計画の動向	■「兵庫が育むこころ豊かで自立する人づくり」を基本理念に、学力・心・体のバランスある成長を促す施策や、教職員の働き方改革や、多様な主体との協働により、地域の課題に向き合い学び続ける人材育成を目指しています。

³ リカレント教育：社会に出た後も職業とは直接結びつかない技術や教等を含む多様な能力・スキルを得ること

2 第3期計画の振り返りからみた三田市の現状

施策	主な取組内容・成果	主な課題
基本目標1 「生きる力」を育む教育の推進		
1「確かな学力」の育成	■目標設計・点検様式の変更による教職員の取組意識向上 ■学校で使用可能なCanva⁴等汎用ツールを使った学習 ■各中学校区での学校園所間での連携接続	三田市の特色を踏まえた小中一貫教育の検討
2「豊かな心」の育成	■小・中・特別支援学校の道徳教育推進教師への研修実施 ■授業参観日やオープンスクールでの道徳科の授業の公開 ■個別に初期日本語教育を指導する制度の立ち上げと実施	カリキュラムセンター ⁵ の機能向上による道徳教育
3「健やかな体」の育成	■わくわく体操や運動遊び等を通じた体の動きや体づくり ■地産地消と異物混入防止の取組により安全で充実した学校給食の提供 ■児童生徒が自身の命を守るための教育実施	中学校を中心とした体力の向上につながる取組
基本目標2 魅力ある学校づくりと家庭・地域の連携		
4一人一人が大切にされる教育の充実	■個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づく指導 ■研修を通じた特別支援教育に関する教職員の専門性向上 ■サポートルーム⁶の全校設置	個に応じた自立活動の指導を行える人材育成
5社会的自立に向けた教育の推進	■キャリアノート⁷等を活用した系統的なキャリア教育 ■地域での体験活動（トライやる・ウィーク等）の充実 ■実践的な英語教育と郷土愛を育む伝統文化学習	地域の伝統文化に触れる機会の充実
6幼児期の教育の充実	■市立幼稚園の再編と2号認定児⁸の受け入れ ■教職員の資質向上に向けた研究の公開園での発表の実施 ■市立幼稚園全園における週5日の預かり保育の実施	幼保小の円滑な接続の強化
7信頼される学校づくりの推進	■各種研修の実施、および研修受講教職員数の増加 ■全中学校へのデジタル採点システムの導入 ■教職員の服務規律確保に向けた倫理観・職業観の醸成	社会に開かれた教育課程の実現
8地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり	■コミュニティ・スクール⁹の充実と学校運営協議会の設置 ■学校・家庭・地域が連携した見守り活動の実施 ■こども家庭センターの設置による一相談体制の整備	コミュニティ・スクール ⁹ と地域学校協働活動 ¹⁰ との連携
基本目標3 学びを支える環境の整備		
9子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり	■三田の自然を学び、活かすジュニアスタッフ¹¹の育成 ■有馬富士自然学習センターでの過去最高人数の受け入れ ■図書館におけるこどもの読書活動に関する講座の開催	学びの成果が次世代に還元される仕組みづくり
10 学びを支える環境の整備	■上野台中学校・八景中学校の再編決定 ■交通安全教育の実施と防犯カメラの設置 ■給食センター整備・運営のあり方を示した基本構想の策定	他の学校における再編の協議

⁴ Canva:直感的な操作でグラフィックを作成できるオンラインデザインツール

⁵ カリキュラムセンター:学校のカリキュラム作成や授業改善を専門的に支援する拠点のこと

⁶ サポートルーム:公立小中学校内の、不登校や教室に入りづらい児童生徒が安心して過ごせる「居場所」

⁷ キャリアノート:児童生徒が成長の記録を整理し、自己理解や将来の生き方を考えるためのキャリア教育教材

⁸ 2号認定児:3歳から就学前までのこどもで、様々な理由により、「保育の必要性」が認められたこどものこと

⁹ コミュニティ・スクール:学校・家庭・地域が目標を共有し、協働して学校運営やこどもの育ちを支える仕組み

¹⁰ 地域学校協働活動:地域住民や保護者、学校が連携し、地域全体でこどもの学びや成長を支える継続的な取組

¹¹ ジュニアスタッフ:有馬富士自然学習センターでお仕事体験をしながら自然や生物の大切さを学ぶプログラム

第3章 三田市の教育がめざす姿

1 基本理念とめざすこども像

① 基本理念

第3期の「三田市教育振興基本計画」では、「夢を育て、人をはぐくむ学びのまち さんだ」を基本理念として、教育施策を進めてきました。その取組成果を踏まえ、三田市教育大綱及び「3つの大切な視点」を考慮して、次の5年間の基本理念を示します。

【(仮)第3期】夢を育て、人をはぐくむ学びのまち さんだ

第5次三田市総合計画では、“「ひと」×「まち」×「さと」が織りなす未来都市 三田”をまちづくりの基本目標に掲げており、三田市こども計画では、こども・若者の権利と幸せを守る「こどもまんなか」の視点のもと、こどもや若者、子育て家庭を地域全体で支えるまちをめざしています。

本市には、豊かな自然環境や地域資源、高等学校、大学、博物館など、多様な学びと体験を支える環境があり、これらは本市の大きな強みであり、学校・家庭・地域が連携し、こどもたちが安心して学び、自らの個性を発揮しながら成長できる環境を整えることは、将来のまちづくりにもつながる重要な取組です。

こどもたちは、本市の未来を担うかけがえのない存在です。こども一人一人の個性を大切にはぐくみ、その個性が人や地域とのつながりを生み、新たな価値や学びを共に作り出していく「共創」のまちを目指し、本市の教育における基本理念を「●●」と定め、教育の振興に取り組みます。

② めざすこども像

基本理念を尊重し、3つの視点を大切にしながら施策等に取り組むことによって、三田市の教育が目指すこどもの姿を実現します。

【めざすこども像】

【(仮)第3期】自分が好き、人が好き、
このまちが好き、夢に向かって歩むさんだっ子

【具体的なこどもの姿】

- 自分や人を大切にし、誇りを持って生きる子
- 身近な「なぜ？」を探究し、学ぶことを楽しむ子
- “ふるさと三田”のよさを知り、「誇り」を力に変える子
- 広い視野をもち、常識にとらわれない発想力豊かな子
- 強みを自信にし、自分の人生を「舵取る」子

2 成果を測る指標

本計画を通じて進める取組の成果を測る指標として、計画全体の目標（KGI）を定めます。

指 標	現 状 (令和8年度)	目 標 (令和13年度)
学校が楽しいと答えるこどもの割合		

3 基本目標

教育の“基本理念”と“めざすこども像”の実現に向けて、3つの基本目標を定めます。

〔基本目標1〕

【((仮)第3期)「生きる力」を育む教育を推進します

変化し続ける社会の中で、柔軟に対応しながら、自分自身で人生を切り開くことができる心身の強さを育む教育を推進します。

◆基本施策

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1 「確かな学力」の育成 | 4 誰一人取り残さない教育の推進 |
| 2 「豊かな心」の育成 | 5 自分らしく生きる力を育む教育の推進 |
| 3 「健やかな体」の育成 | 6 幼児期の教育の充実 |

〔基本目標2〕

【((仮)第3期)魅力ある学校をつくり、 家庭・地域と共にこどもの学びを支援します

学校での学び、家庭での学び、地域での学びのそれぞれが、市全体で支え合う体制を構築することで、多様な個性を育む持続可能な学びの環境づくりに取り組みます。

◆基本施策

- 7 地域ぐるみでこどもを育てる基盤づくり

〔基本目標3〕

【((仮)第3期)学びを支える環境を整備します

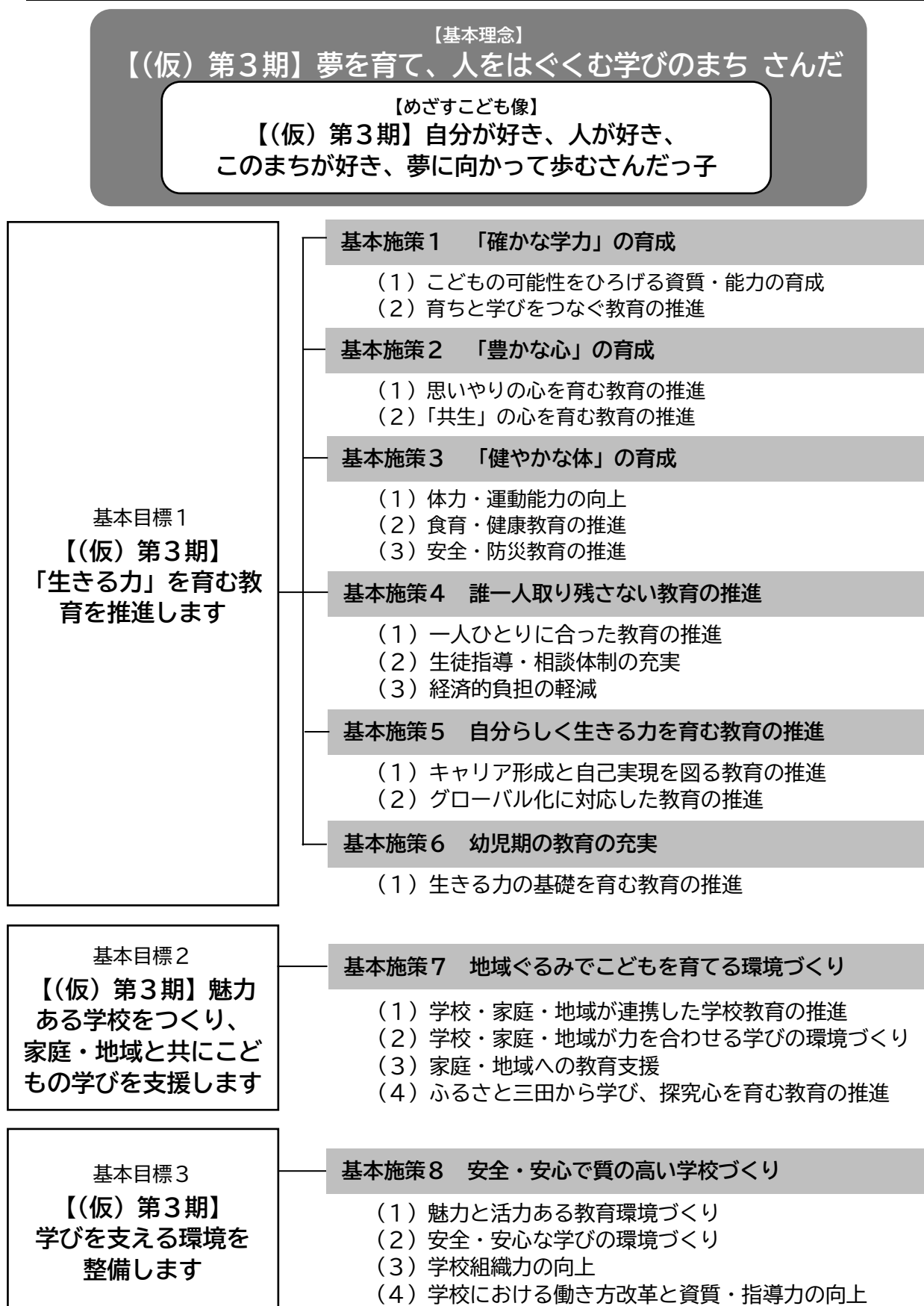
こどもたち一人ひとりの能力や資質を最大限に引き出すため、すべてのこどもが、安全・安心で質の高い教育を受けられる学びの環境づくりを推進します。

◆基本施策

- 8 安全・安心で質の高い学校づくり

第4章 計画の内容

1 計画の体系図



2 基本施策の展開

基本目標1

【(仮)第3期】 「生きる力」を育む教育を推進します



現 状と課題

- ◆アンケート調査では、教育に関する関心事として「主体的に学ぶ力」「確かな学力」が多くなっています。
- ◆小中一貫の義務教育で終わりではなく、その先にある高校、大学などの進路を描いた教育設計が必要となっています。
- ◆アンケート調査では、いじめを受けたときや見たときに相談相手として、「相談しない」が一定数存在します。

基 本目標の方向性

- ◆知識や技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力をバランスよく育み、個別最適な学びや協働的な学び、探究的な学習、教職員の指導力向上、保幼小中の連携を通じて学びの質を高めます。
- ◆コミュニケーション力や社会性の育成が課題となる中、基本的生活習慣を身に付け、自他を大切にする心を育むとともに、多様な背景をもつ人々と共に生きる意欲や態度を養います。

基本施策1 「確かな学力」の育成

成果指標

指 標	現 状 (令和8年度)	目 標 (令和13年度)
授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて活用できると思うこどもの割合		
幼稚園・保育所等と小学校の連携により、小学校生活及び教育への円滑な接続につながっていると感じる教師の割合		

(1) こどもの可能性をひろげる資質・能力の育成

主な取組

- ＊学力向上に向けた授業改善と学ぶ力の育成

KPI



- ＊一人ひとりに合わせた学びと、協力して深める学びの推進

(2) 育ちと学びをつなぐ教育の推進

主な取組

- ＊小中一貫した教育の充実

- ＊幼児期から児童期への円滑な接続

幼稚園・認定こども園・保育所等と小学校との交流及び相互参観



基本施策2 「豊かな心」の育成

成果指標

指 標	現 状 (令和8年度)	目 標 (令和13年度)
「いじめはどんな理由があってもいけないこと」だと思うこと もの割合		

(1) 思いやりの心を育む教育の推進

主な取組

＊道徳教育の推進

KPI



(2) 「共生」の心を育む教育の推進

主な取組

＊人権教育の推進

＊福祉教育の推進

＊多様な文化を理解し合う教育の推進



基本施策3 「健やかな体」の育成

成果指標

指 標	現 状 (令和8年度)	目 標 (令和13年度)
学校給食の献立に対する児童生徒の満足度		

(1) 体力・運動能力の向上

主な取組

- * 体力・運動能力の向上のための取組の推進



(2) 食育・健康教育の推進

主な取組

- * 食育の推進 **KPI**
- * 健康教育の推進



(3) 安全・防災教育の推進

主な取組

- * 安全教育の推進
- * 防災教育の推進

基本施策4 誰一人取り残さない教育の推進

成果指標

指 標	現 状 (令和8年度)	目 標 (令和13年度)
不登校児童生徒・保護者が関係機関に相談・支援を受けている割合		

(1) 一人ひとりに合った教育の推進

主な取組

- *一人ひとりに応じた相談支援の充実
- *特別支援教育に関する研修の充実
- *通常の学級等における特別支援教育の推進
- *ちがいを認め合い、共に生きる力を育てる教育の推進

(2) 生徒指導・相談体制の充実

主な取組

- *生徒指導の充実
- *教育相談の推進
- *不登校対策の推進 **KPI**
- *福祉部局と連携した効果的な支援

(3) 経済的負担の軽減

主な取組

- *経済的負担の軽減策の推進

基本施策5 自分らしく生きる力を育む教育の推進

成果指標

指 標	現 状 (令和8年度)	目 標 (令和13年度)
トライやる・ウィークを通じて 「考えや行動に影響があった」 という生徒の割合		

(1) キャリア形成と自己実現を図る教育の推進

主な取組

- * キャリア教育推進体制の整備
- * 体験活動を通じたキャリア教育の推進



(2) グローバル化に対応した教育の推進

主な取組

- * グローバル社会で生き抜く力を育む教育の推進

基本施策6 幼児期の教育の充実

成果指標

指 標	現 状 (令和8年度)	目 標 (令和13年度)
「幼稚園はこどもの主体性を育み、活動を通して友達と協力したり、粘り強く取り組む力や自己肯定感などを高めている。」と答える保護者の割合		

(1) 生きる力の基礎を育む教育の推進

主な取組

- * 幼児期の育ちと学びを支える教育・保育環境の確保と充実** KPI
 - ・幼児教育の質の向上に向けた研究事業と専門分野別リーダー研修
 - ・幼児の内面理解と発達に即した指導と「学びに向かう力」を育む保育の創造
 - ・幼児期の育ちにとって望ましい集団規模と環境の確保に向けた公立の就学前施設のあり方の検討
- * 就学前教育・保育施設の連携の推進**
 - ・保育園所・幼稚園・認定こども園の交流による横のつながり
 - ・保育園所・幼稚園・認定こども園の合同研修
- * 市立幼稚園における子育て支援の充実**
 - ・市立幼稚園・市立認定こども園における親子交流事業と子育て支援推進事業
 - ・市内保育施設・私立認定こども園における地域子育てステーション¹²事業の実施

¹² 地域子育てステーション:親子が一緒に遊んだり、気軽に子育て相談ができる場所

基本目標2

【(仮)第3期】魅力ある学校をつくり、 家庭・地域と共にこどもの学びを支援します



現 状と課題

- ◆アンケート調査では、学校・家庭・地域が連携を深め、子育てをしていく上で大切なこととして「それぞれの情報を共有すること」「学校・家庭・地域をつなぐ人がいること」が多くなっています。
- ◆地域と連携し、地域ごとの特色を活かした教育課程の作成を通じた、こどもたちのシビックプライド¹³の醸成が必要となっています。

基 本目標の方向性

- ◆より開かれた学校づくりを通じて、学校・家庭・地域が連携・協働する仕組みを整え、保護者や地域住民の参画を促しながら、地域全体でこどもの成長を支える体制づくりと家庭教育支援の充実を図ります。
- ◆大人の学びや人とのつながりをこどもの教育や地域に生かす仕組みを整え、地域資源を活用した多様な学びを通じて、こどもと大人の学びが循環する社会の実現を図ります。

¹³ シビックプライド：まちや地域に対する市民の「誇り」や「愛着」を指す概念。自分たちのまちを、より良い場所にするという当事者意識を伴うもの

基本施策7 地域ぐるみでこどもを育てる環境づくり

成果指標

指 標	現 状 (令和8年度)	目 標 (令和13年度)
トライやる・ウィークに「来年度以降も、協力したい」と答える事業所の割合		

(1) 学校・家庭・地域が連携した学校教育の推進

主な取組

- * 家庭や地域と連携した学校づくりの推進
 - ・学校支援ボランティアや放課後こども教室の地域や学校への周知
 - ・オープンスクールや授業参観等での道徳科の授業の公開



(2) 学校・家庭・地域が力を合わせる学びの環境づくり

主な取組

- * 学校・家庭・地域の連携による学びの環境づくり **KPI**
 - ・学校と家庭、地域、関係機関の連携、協働による地域の教育力を活用したキャリア教育
 - ・コミュニティ・スクール⁹の活用と地域学校協働活動¹⁰との一体的推進
- * こどもが安心して過ごせる地域づくりの推進
 - ・青少年補導員による街頭補導・啓発活動
 - ・有害図書類の回収およびインターネットへの対応
 - ・こども110番の家の普及とSNSトラブルの防止
 - ・青少年問題協議会の開催
- * スポーツ・文化芸術活動を通じた地域がつながる機会づくり
 - ・地域のスポーツ団体を通じた仲間づくりやこどもの健康体力づくり、競技者の育成
 - ・各種スポーツ教室や体験講座の周知活動の支援
 - ・こどもたちが将来にわたり地域で多様なスポーツ・文化芸術活動に親しめる機会の確保
- * 社会教育施設等の活用
 - ・学びの成果を地域に還元する「学びの好循環」の仕組みづくり
 - ・図書館教育担当者会等を活用した、学校教諭、学校司書との連携促進
 - ・ジュニアスタッフ¹¹、ユーススタッフ¹⁴など、継続して社会教育活動に関わることのできる仕組みづくり

¹⁴ ユーススタッフ：有馬富士自然学習センターで、ジュニアスタッフ卒業後、運営や小学生の指導に関わる中高生、大学生のボランティアスタッフ

(3) 家庭・地域への教育支援

主な取組

- ＊家庭教育支援の充実
 - ・家庭・地域の教育力向上に向けた保護者同士の交流の機会の確保
- ＊子育て世帯に対する支援の強化
 - ・三田市こども家庭支援センターの更なる機能の充実
- ＊こどもの人権やいのちの大切さの啓発
 - ・子どもの自尊感情を育み人権を尊重する研修の充実
 - ・「人権と共生社会を考える市民のつどい」や「市民啓発講座」の開催
 - ・人権啓発誌「人権さんだ」等での「こどもの人権」についての啓発



(4) ふるさと三田から学び、探究心を育む教育の推進

主な取組

- ＊ふるさと三田への愛着・誇りを育む学びの充実
 - ・芸術文化に触れる機会の創出
 - ・友好都市(鳥羽市・浦河町)の小学校と本市小学校の児童間訪問などの対面交流の促進
 - ・三田青磁などの伝統文化体験や石臼等を利用した昔のくらし体験
- ＊三田のよさを生かした学びの環境づくり
 - ・有馬富士自然学習センターや県立人と自然の博物館等と連携した学びの創出
 - ・「有馬富士公園生態園(林の生態園・草地の生態園・水辺の生態園)」を学習の場とする学校教育支援



【(仮)第3期】学びを支える環境を整備します



現 状と課題

- ◆アンケート調査では、学校再編への関心として「通学距離が長くなるため、安全・安心に通学できる対策が必要」「クラス替え等により、新しい友だちをつくる機会が増え、社会性や協調性を育みやすい」が多くなっています。
- ◆ICT の積極的な活用による校務の効率化や、地域等との連携による業務の役割分担・最適化などを推進し、学校における働き方改革を実現することが必要です。

基 本目標の方向性

- ◆学校・家庭・地域との連携・協働や学校評価を通じた開かれた学校づくり、学校における働き方改革によるこどもと向き合う時間の確保、服務規律の徹底による非違行為の根絶や教職員の ICT リテラシーの育成を通じて、信頼される学校づくりを進めます。
- ◆少子化を踏まえた学校の適正規模・適正配置の検討を進めるとともに、学校施設の整備、安全体制の充実などを通じて、安全・安心で時代に即した学びの環境を整備します。

基本施策8 安全・安心で質の高い学校づくり

成果指標

指 標	現 状 (令和8年度)	目 標 (令和13年度)
1年間における教職員の1箇月 超過勤務時間の平均時間		
体育館における空調設置状況		

(1) 魅力と活力ある教育環境づくり

主な取組

- ＊小中学校の再編
 - ・三田市立学校のあり方に関する基本方針に基づく小中学校の再編
 - ・小中一貫型小学校・中学校や義務教育学校などに関する検討
 - ・新統合中学校開校に向けた取組の推進

(2) 安全・安心な学びの環境づくり

主な取組

- ＊学校園施設の整備・充実
 - ・施設の老朽化等の状況に応じた日常修繕と長寿命化改修等の実施
 - ・エレベーターの整備、体育館への空調設置等の施設の充実
 - ・新しい時代の学びに適応した設備利用、施設活用の検討
- ＊学校園の安全を守る体制の充実
 - ・防犯カメラや防火設備等の安全設備の整備・点検
- ＊学校給食の安全・安心の確保
 - ・研修等による職員の資質向上と、食の安全管理、アレルギー対応の充実
 - ・アレルギー専用調理場等を備えた新たな給食センターの整備促進
 - ・現給食センターの適切な管理運営



KPI

(3) 学校組織力の向上

主な取組

*開かれた学校園づくり

- ・学校園運営に関する情報発信を通じた教育活動に対する家庭や地域の理解促進による、地域全体でこどもの成長を支える環境づくり
- ・PDCAサイクルに基づく学校評価を通じた学校園運営の成果や課題の共有と積極的な教育活動の改善
- ・ICT等の効果的な活用による学校園所と家庭・地域をつなぐ情報発信機能の強化

*安定的な学校運営の推進

- ・主幹教諭の適切な配置によるマネジメント体制の強化、校務の共同実施・最適化等による組織的で機動的な対応
- ・リスクマネジメントの研修機会や危機管理体制の整備
- ・教育現場の実情や家庭、地域の意見を、施策や学校の組織運営に反映させる取組の推進



(4) 学校における働き方改革と資質・指導力の向上

主な取組

*教職員が安心して働くことができる環境づくり

KPI

- ・勤務時間の適正化推進委員会による各学校の業務改善状況の共有、各学校や地域の実情を踏まえた取組の推進
- ・ストレスチェックの着実な実施と、デジタル技術の積極的な活用による校務の効率化・高度化
- ・研修や相談体制の充実による教職員のメンタルヘルスケア、高ストレス者へのサポート

*教職員の資質・指導力の向上

- ・服務規律の徹底と、教育に携わる専門職としての高い倫理観を醸成する研修の充実
- ・学習指導要領の理念を踏まえ、教職員のニーズや学校の現状に応じた体系的な研修機会の充実
- ・教科領域ごとの専門部会に分かれた授業の開発、指導内容・方法等の研究
- ・ICT 活用の意義や必要性を共有し、教職員の ICT 活用指導力の向上に向けた研修会の実施



第4期計画体系図(成果指標＝KPI案等)		
		担当課
基本施策1「確かな学力」の育成		
(1) こどもの可能性をひろげる資質・能力の育成		
	1 学力向上に向けた授業改善と学ぶ力の育成	教育研修所
	2 一人ひとりに合わせた学びと、協力して深める学びの推進	教育研修所
(2) 育ちと学びをつなぐ教育の推進		
	3 小中一貫した教育の充実	学校教育課
	4 幼児期から児童期への円滑な接続	学校教育課・幼児教育振興課・保育振興課
基本施策2「豊かな心」の育成		
(1) 思いやりの心を育む教育の推進		
	5 道徳教育の推進	教育研修所
(2) 「共生」の心を育む教育の推進		
	6 人権教育の推進	学校教育課
	7 福祉教育の推進	学校教育課
	8 多様な文化を理解し合う教育の推進	学校教育課
基本施策3「健やかな体」の育成		
(1) 体力・運動能力の向上		
	9 体力・運動能力の向上のための取組の推進	教育研修所・文化スポーツ課・幼児教育振興課
(2) 食育・健康教育の推進		
	10 食育の推進	学校教育課・学校給食課
	11 健康教育の推進	学校教育課
(3) 安全・防災教育の推進		
	12 安全教育の推進	学校教育課
	13 防災教育の推進	学校教育課
基本施策4 誰一人取り残さない教育の推進		
(1) 一人ひとりに合った教育の推進		
	14 一人ひとりに応じた相談支援の充実	学校教育課・幼児教育振興課・保育振興課
	15 特別支援教育に関する研修の充実	学校教育課
	16 通常の学級等における特別支援教育の推進	学校教育課
	17 ちがいを認め合い、共に生きる力を育てる教育の推進	学校教育課
(2) 生徒指導・相談体制の充実		
	18 生徒指導の充実	学校教育課
	19 教育相談の推進	学校教育課
	20 不登校対策の推進	学校教育課
	21 福祉部局と連携した効果的な支援	学校教育課
(3) 経済的負担の軽減		
	22 経済的負担の軽減策の推進	学校教育課
基本施策5 自分らしく生きる力を育む教育の推進		
(1) キャリア形成と自己実現を図る教育の推進		
	23 キャリア教育推進体制の整備	学校教育課
	24 体験活動を通じたキャリア教育の推進	学校教育課(・教育研修所)
(2) グローバル化に対応した教育の推進		
	25 グローバル社会で生き抜く力を育む教育の推進	学校教育課・教育研修所
基本施策6 幼児期の教育の充実		
(1) 生きる力の基礎を育む教育の推進		
	26 幼児期の育ちと学びを支える教育・保育環境の確保と充実	幼児教育振興課・保育振興課
	27 就学前教育・保育施設の連携の推進	幼児教育振興課・保育振興課
	28 市立幼稚園における子育て支援の充実	幼児教育振興課
基本施策7 地域ぐるみでこどもを育てる環境づくり		
(1) 学校・家庭・地域が連携した学校教育の推進		
	29 家庭や地域と連携した学校づくりの推進	学校教育課
(2) 学校・家庭・地域が力を合わせる学びの環境づくり		
	30 学校・家庭・地域の連携による学びの環境づくり	学校教育課・こども育成課
	31 こどもが安心して過ごせる地域づくりの推進	こども育成課
	32 スポーツを通じた地域がつながる機会づくり	文化スポーツ課・地域クラブ推進課
	33 社会教育施設等の活用	文化スポーツ課・こども育成課
(3) 家庭・地域への教育支援		
	34 家庭教育支援の充実	こども育成課
	35 子育て世帯に対する支援の強化	こども家庭支援センター・こども政策課
	36 こどもの人権やいのちの大切さの啓発	人権共生推進課
(4) ふるさと三田から学び、探究心を育む教育の推進		
	37 ふるさと三田への愛着・誇りを育む学びの充実	教育研修所・文化スポーツ課
	38 三田のよさを生かした学びの環境づくり	文化スポーツ課
基本施策8 安全・安心で質の高い学校づくり		
(1) 魅力と活力ある教育環境づくり		
	39 小中学校の再編	学校再編課・学校教育課
(2) 安全・安心な学びの環境づくり		
	40 学校園施設の整備・充実	教育総務課・幼児教育振興課・教育研修所
	41 学校園の安全を守る体制の充実	教育総務課・危機管理課・幼児教育振興課・こども家庭支援センター
	42 学校給食の安全・安心の確保	学校給食課
(3) 学校組織力の向上		
	43 開かれた学校園づくり	学校教育課・幼児教育振興課
	44 安定的な学校運営の推進	教育総務課
(4) 教職員の働き方改革と資質・指導力の向上		
	45 教職員が安心して働くことができる環境づくり	教育総務課
	46 教職員の資質・指導力の向上	教育総務課・教育研修所

■計画全体の目標(KGI):学校が楽しいと答えるこどもの割合		資料3
KPI案		
平均正答率の全国との比較(全国学力・学習状況調査)		第3期
自分と違う意見について考えるのは楽しいと答えた児童生徒の割合		
「授業の内容がよく分かる」と思う児童生徒の割合		
授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて活用できると思うこどもの割合		総計
幼稚園・保育所等と小学校の連携により、小学校生活及び教育への円滑な接続につながっていると 感じる教師の割合		総計
小中合同の授業研究、研修会の実施回数		
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合☑		第3期
人が困っているときは、進んで助けていると答えた児童生徒の割合		第3期
いじめを見たときや受けたときに、「相談しない」児童生徒の割合		第3期
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合		
「いじめはどんな理由があってもいけないこと」だと思う子どもの割合		総計・第3期
「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の肯定的回答の割合		第3期
1週間の総運動時間(体育授業を除く。)が60分未満の児童生徒の割合		
卒業後にもスポーツをしたいと思う「やや思う」児童生徒の割合		
朝食を毎日食っていると答えた児童生徒の割合		第3期
給食への地場野菜使用率		第3期
毎日、同じくらいの時刻に寝ている、毎日、同じくらいの時刻に起きている児童生徒の割合		
学校給食の献立に対する児童生徒の満足度		総計
学校園における交通安全教室、防犯教室等の開催回数		
特別支援教育研修講座受講者数(年間延べ人数)		第3期
特別支援教育の経験を有する教員の割合(採用10年目までの経験率など)		
不安がある時に、先生や学校の大人にいつでも相談できると感じる児童生徒の割合		
学校内外で専門機関等の相談・指導等を受けていない不登校児童生徒数の割合		
不登校の支援を受けている児童生徒のうち、安心できる居場所があると感じる割合		
いじめの認知件数に占める、いじめが解消しているものの割合		
不登校児童生徒・保護者が関係機関に相談・支援を受けている割合		第3期
将来の夢や目標を持っていると答えた児童生徒の割合		第3期
人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合		
トライやる・ウィークを通じて「考えや行動に影響があった」という生徒の割合		
中学校卒業段階での英検3級相当以上の取得割合		
外国語活動・英語が「好き」と答えた割合		
市内保育園所・幼稚園・認定こども園の合同研修会の実施回数		
幼稚園・認定こども園が実施する地域子育て支援事業の実施回数		第3期
幼稚園・認定こども園・保育所等との連携・接続を目的とした5歳児交流の実施		
「幼稚園はこどもの主体性を育み、活動を通して友達と協力したり、粘り強く取り組む力や自己肯定感などを高めている。」と答える保護者の割合		第3期
放課後子ども教室の実施校区数		第3期
こうみん未来塾(全市版)に参加して「とても面白かった」と答えたこどもの割合		第3期
地域学校協働活動推進員(コーディネーター)が配置されている学校の割合		
「トライやる・ウィーク」に「来年度以降も、協力したい」と答える事業所の割合		総計・第3期
ペアレントトレーニングの受講者数		
郷土学習プログラムの運営状況		
有馬富士自然学習センタースクールサポート事業プログラムの参加者数		
大人になっても三田市に住み続けたいと思う児童生徒の割合		
学校再編(統合)の取組を「理解できる」とする市民・教職員の割合		
校舎の洋式便器1基あたりの児童生徒数		第3期
こども110番の家年度末設置箇所数		第3期
学校施設の長寿命化改修計画の進捗率・実施率		
体育館への空調設置やトイレ洋式化など施設整備に満足・期待する市民の割合		
体育館における空調設置状況		総計
業務において、負担やストレスを感じる点があると回答した教職員の割合		
児童生徒への指導力向上に向けた実践を行っていると回答した教職員の割合		
「研修内容を今後の指導に役立てたい」と回答した教職員の割合		第3期
定時退勤日(マイ定時退勤日含む)、ノー会議デー、ノー部活デーの実施率		
1年間における教職員の1箇月超過勤務時間の平均時間		総計